

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査から見られる概況について〈江津市〉

1. 小学校について

小学校調査 6年生 市内7校 183名

小学校	調査種別	江津市	島根県	全国
国語	国語A	67	68	70.7
	国語B	51	55	54.7
算数	算数A	58	61	63.5
	算数B	44	49	51.5
理科	理科	55	58	60.3

【各教科調査問題】〈○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答率〉

国語A	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について、全国を下回った。 ▲文の中における主語と動詞の関係などに注意して文を書く問題について全国を大きく下回った。
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について、全国を下回った。 ▲「書くこと」について、相手を意識して書いたり、文章や内容を推敲したりすることに課題がある。 ▲目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んだり、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読んだりすることに課題が見られる。
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について、全国を大きく下回った。 ▲「数と計算」「図形」「数量関係」の領域を扱った問題について全国を大きく下回った。 ▲複数の数量の関係をとらえることができず、問題の場면을的確にとらえることができにくい。
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について、全国を大きく下回った。 ▲日常生活の問題解決のために、複数の情報を関連付けて考え、条件に合う事柄について判断することに課題がある。また、記述式の問題形式において無解答率が高い。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について、全国を大きく下回った。 ▲問題の文脈を解釈し、予測や仮説を基に実験結果を見通したり、観察・実験の結果を整理して考察したりする問題において筋道を立てて考え、記述することに課題がある。

【児童質問紙調査】〈○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答値〉

学校	<ul style="list-style-type: none"> ○「理科の勉強は大切だと思う」「理科の授業で学習したことは将来役に立つ」と考える児童の割合は全国を大きく上回った。 ○「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」と答えた児童の割合が全国を大きく上回った。 ▲算数の勉強が好きな児童が全国を大きく下回った。 ▲「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「算数の授業で問題を解く時、もっと簡単に解く方法がないか考える」児童の割合が全国を大きく下回った。 ○「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」児童の割合が年々増えている。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ▲毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童の割合が全国を大きく下回った。 ▲家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりインターネットをしたりしている児童の割合が全国を上回った。 ▲家で、「学校の宿題をしている」「学校の予習・復習をしている」「予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら勉強している」児童の割合が全国を下回った。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ○「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う」と答えた児童の割合が全国を大きく上回った。 ○「地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んだりする」「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と考える児童の割合が全国を大きく上回った。 ▲地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童は全国を大きく下回った。

2. 中学校について

中学校調査 3年生 市内4校 184名

中学校	調査種別	江津市	島根県	全国
国語	国語A	74	76	76.1
	国語B	59	61	61.2
数学	数学A	62	64	66.1
	数学B	41	45	46.9
理科	理科	63	66	66.1

【各教科調査問題】〈○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答率〉

国語A	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、全国と比べてやや下回った。 ▲「書くこと」の領域において、全国を大きく下回った。
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、全国と比べてやや下回った。 ▲「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」「文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える」「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる」問題について全国を大きく下回った。
数学A	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、全国を大きく下回った。 ▲「数と式」「図形」「関数」の領域について全国を大きく下回った。
数学B	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、全国を大きく下回った。 ▲「判断の理由を説明する」「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する」の問題について全国を大きく下回り、無解答率も高かった。 ▲「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する」問題について全国を大きく下回った。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は全国をやや下回った。 ▲実験結果や資料を読み取り、分析して解釈して記述する設問の無解答率が高い。

【生徒質問紙調査】〈○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答値〉

学校	<ul style="list-style-type: none"> ○1日あたり1時間以上読書をする生徒の割合が全国を上回り、また年々増加している。 ○「ほぼ毎日新聞を読んでいる」生徒の割合が全国をやや上回った。 ▲「数学ができるようになりたい」「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」生徒の割合が全国を大きく下回った。 ▲「理科の勉強は大切だと思う」「理科の授業の内容はよくわかる」「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う」と答えた生徒の割合が全国を大きく下回った。 ▲「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える」と答えた生徒の割合が全国を大きく下回った。 ○「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」生徒の割合が年々増加している。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○家で「学校の授業の予習・復習をしている」「自分で計画を立てて勉強をしている」「予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」生徒の割合が全国を大きく上回った。 ○「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をする」と答えた生徒の割合が全国を大きく上回った。 ▲学校の授業以外に、1時間以上勉強する生徒の割合が全国を大きく下回った。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ○「1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う」「今住んでいる地域の行事に参加している」生徒の割合が全国を大きく上回った。 ▲「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」と答えた生徒の割合が年々減少している。

3. 改善策について

- ◇今年度も各学校で実践している「授業改善アクションプラン」のもと、授業改善を継続して実践し、学力育成サイクルプランの更なる充実を図る。
- ◇江津市独自の学習の土台づくりを推進し、江津市内小中学校全体で「家庭学習の充実」「教員の指導力向上」を目指す。
- ◇学力調査結果の課題を踏まえ、江津市独自の「算数フォローアッププリント」を作成し、授業・家庭学習で活用できるよう各小学校に提供し、学力育成の一助とする。
- ◇家庭学習について、時間確保と質の向上、学習への意欲向上を図るために、学校での学びと関連した課題を取り入れたり、学習プリント配信システムを活用したり、家庭学習の意義を明確に伝えたりするなど、家庭と連携した取組を一層すすめる。
- ◇小中国語に関して、学校図書館活用教育研修会の開催、読解力育成事業の推進等により、自分の考えをまとめる力、書く力、伝える力を伸ばす。
- ◇算数授業改善推進校事業指定校の授業公開に積極的に参加し、算数の授業力向上を図る。
- ◇児童生徒の地域への愛着や貢献意欲を高めるために、今後も「江津市ふるさと・キャリア教育」の推進を継続する。